

宇奈月で合宿形式自立塾

共同生活通し 社会復帰支援

引きこもりや生活困窮者 在として活動を続けてい
らの社会復帰を支援する富
る。

山県黒部市の「NPO法人
教育研究所 宇奈月自立
塾」。合宿形式の共同生活
を通して自立を手助けし、
これまでに二百人以上が巣
立ってきた。理事長の牟田
光生さん(四〇)は「初めは支
援者と利用者だった関係
が、就職して自立し、対等
な関係になるとうれしい」
と塾の「お父さん」的な存



川のはとりに、六階建ての
塾は立つ。生活困窮者や虐
待による精神疾患がある子
どもなど十〜六十代の十六
人が共同生活を送りながら
就労体験などを行っている。
横浜市出身の牟田さん
は、父親が自宅で不登校の
子どものためのフリースク
ールを開いていたこともあ
って、幼いころから支援を
間近に見てきた。スクール
の子どもと一緒に遊べ、楽
しい思い出がある一方、忘
れられない出来事もあっ
た。
小学生の頃、スクールで

モデルケース目指す



合宿生活を送る入塾者(手前)と話
す牟田光生理事長(富山県黒部市)

寝泊まりし、親しくしてい
た中学生が亡くなった。ス
クールに来る前に入っていた
不登校の子どもたちのため
の全寮制の私塾(埼玉県)
を脱走し、塾長や塾生に無
理やり連れ戻されて暴行を
受けた。「合宿支援とは何
なのか」。

高校時代には寮に下宿
し、合宿との縁は続いた。
寮長も務め、「責任感や自
主的に考える力が育った」
と合宿の良さを実感した。
支援活動に携わり始めた
のは、就労支援の場として
国が計画した合宿形式の
「若者自立塾」事業を父親
が受託したのがきっかけ。
二〇〇五年に宇奈月温泉街
近くに開いた塾の運営を任
された。

その後、若者自立塾は政
権交代に伴う事業仕分け
で、〇九年度に廃止となり、
活動が行き詰まったが、宇
奈月自立塾として再出発。
今は塾の他、若者の就労支
援をする「にいかわ若者サ
ポートステーション」の運
営や、障害者の就労支援な
ど幅広く手掛ける。
「いろいろな事業をやっ
ているのは、制度に当ては
まらず、こぼれ落ちる子ど
もを救うため」と説明。
「制度を組み合わせながら
その人にあった支援を展開
し、その人なりの人生を送
ってほしい」と願う。

これまで接してきた生活
困窮者やニートらは、それ
ぞれ違った背景を持っている
だが、全員に共通している
ことがある。「コミュニケ
ーション能力と人間関係の
つたなさ」だ。

「こうした子や支援者が
いることを知ってほしい。
ちょっとした周りの働き掛
けで、世の中に出てこれら
れ」と理解を促す。格差が
広がる社会では同じような
問題が出てくるといい、
「合宿支援の有効性を示し
て、モデルケースにした
い」。(山中正義)

